

[認知症対応型共同生活介護用]

## 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月 10日

### 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670600115
法人名	社会福祉法人 桜仁会
事業所名	グループホーム 風の詩
所在地	阿久根市赤瀬川276-1 (電 話) 0996-64-6211
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年3月10日

### 【情報提供票より】(21年 2月13日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9 人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

#### (4) 利用者の概要( 2月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 昴和会 内山病院
---------	---------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阿久根駅から丘陵地を上って行くと、介護老人保健施設・デイサービスセンターとともにホームが立つ。食堂の外には広いベランダと菜園、その先に海が見下ろせ、中では生き生きと暮らす利用者の姿がある。併設する施設や協力病院との連携は、利用者や家族、職員にとって、医療面でサポートを受けたり、夜間緊急時の協力が得られるため大きな安心となっている。また、以前暮らしていた地域のいきいきサロンに参加し、知人と会話を楽しむ機会を作るなど、利用者の以前の暮らしの環境を保つための積極的な取り組みが始まっている。管理者と職員は話しやすい雰囲気が保たれ、ベテラン職員の助言が活かされ、管理者・ケアマネジャーの情報伝達もいろいろな機会を利用して周知が図られている。職員の温かい声かけを聞き、利用者の笑顔や生き生きとした動きを見ると、コミュニケーションの良さが質の高いサービスとなって利用者の穏やかな生活へとつながっているとの印象を持つ。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価の結果を職員とともに話し合い、「地域との連続性」、「運営推進会議の開催」、「介護計画の説明」などについて話し合い、課題の解決に取り組んだ。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめている。自己評価に管理者と職員が関わることで、外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の評価の時点では開催されていなかった。昨年末より家族代表、地域代表、市職員などを招いて、できる部分から取り組みを始めている。施設理念の紹介や運営状況の説明が行われ、地域や家族からの要望や意見が出され、それが利用者のいきいきサロンへの参加に結びつくなど意義のある会になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに、家族会やアンケートを利用して意見や要望を遠慮なく出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は職員全員で話し合い、必要と判断したことは運営者へ報告され、結果を家族に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居時や面会の時に、家族に地域とのかかわりの重要性を説明し、協力を依頼することにより、以前生活していた地域の近隣の方や親類の訪問が行われている。また、併設施設内の行事に参加したり、以前住んでいた地域のいきいきサロンに毎月参加したりし、知り合いとの会話を楽しんでもらうなど積極的な取り組みを始めている。</p>

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の結果を受け、地域密着型サービスとしての役割について話し合い、取り組みが始まったが、理念の中に「地域住民との交流」を盛り込むには至っていない。	○	めざすサービスのあり方を端的に示したものである「理念」の中に、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援など地域密着型サービスの役割を目指した内容を盛り込むことが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員室にわかりやすく掲示するとともに毎月のミーティングで確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居時や面会の時に、家族に地域とのかかわりの重要性を説明し、協力を依頼することにより、以前生活していた地域の近隣の方や親類の訪問が行われている。また、併設施設内の行事に参加したり、以前住んでいた地域のいきいきサロンに毎月参加したり、知り合いとの会話を楽しんでもらうなど積極的な取り組みを始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を職員とともに話し合い、「地域との連続性」、「運営推進会議の開催」、「介護計画の説明」などについて話し合い、課題の解決に取り組んだ。自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめている。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価の時点では開催されていなかった。昨年末より家族代表、地域代表、市職員などを招いて、できる部分から開催を始めている。施設理念の紹介や運営状況の説明が行われ、地域や家族からの要望や意見が出され、それが利用者のいきいきサロンへの参加に結びつくなど意義のある会になっている。	○	運営推進会議は開催が始まったばかりで、3月末に2回目開催の予定である。参加者の意向もあり現在3ヶ月に1回の開催予定だが、定期的な開催を継続することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回程度は市担当窓口や関係窓口に立ち寄り、情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームだよりと、一人ひとりの様子を書いた手紙を郵送するとともに、面会や電話など機会をとらえて状況を報告している。金銭管理については面会時に説明し、確認の押印をもらうか、遠方の家族には郵送し報告している。職員の異動は面会時に説明し紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに、年1回の家族会やアンケートを利用して意見や要望を遠慮なく出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は職員全員で話し合い、必要と判断したことは運営者へ報告され、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は職員の異動を必要最小限にとどめるように努力をしている。やむを得ず異動となるときには利用者に紹介をし、引き継ぎを十分に行うなどダメージが少なくなるように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回グループホームでテーマを決め、年間計画を作成した勉強会を行っている。その他に行政や社会福祉協議会、法人内の研修などにも参加し、外部研修の費用を事業所が負担するなど職員の資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、他のグループホームの見学や、年3、4回程度の介護支援専門員等の研修で他施設の管理者や職員との交流を図りサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すでに入居中の利用者とともに自宅を訪問し、不安の解消や早期からの関係作りに配慮している。また、今までの暮らしで馴染みのものを持ってきてもらい、家族や今まで係わりのある方の訪問をお願いするなどの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶を飲んだり、料理の下ごしらえをしたり共に過ごす時間の中で、知恵をもらったり、ねぎらいの言葉を掛けてもらいながら支えあう関係を築いている。体を動かすレクレーションや音楽活動、創作活動も頻繁に行っており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前から本人や家族、その他関係者から利用者がどのように暮らしたいかを聞き、楽しみの持てる介護計画をめざしている。入居後は日々の係わりの中で本人の意向をくみとり、ケア会議などで職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	安全と自立のバランスを念頭においた計画を作成するため、主治医や訪問看護師の助言を取り入れ、計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行い、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外出・外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊も可能である。また、看護学生や大学生の実習の受け入れも行い事業所として地域へ貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な往診、通院介助の対応がなされ、利用者及び家族の希望を大切にし、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針「医療連携加算に伴う重度化対応説明に関する指針」を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員研修を行い共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は容易に目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけ、気配りのある声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともにテレビの料理番組を見たり、食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらったり、食前の嚙下体操を楽しむごとの一つとして取り入れることで、食への期待や和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は決まった入浴日があったが、昨年度の外部評価の結果を受け、昨年からは日曜日以外は毎日入浴日とし、利用者、職員からも「よかった」との反応をもらっている。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し、部分浴やシャワーを利用しながら気持ちよく清潔を保つようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事を共にしたり趣味を楽しむことでそれぞれの役割を見出し参加する喜びを感じている。また、もの静かだと思っていた人が世話好きだったり、役割のある場面を設定することで新しい一面の発見をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に5、6回のドライブや本人の気分や天候に応じて食事の買い物や天気の良い日は散歩など日常的に屋外に出るほか、いきいきサロンへの参加を支援している。また、外出できないときでも外気浴はほぼ毎日行い、体の新陳代謝や生活のリズムの調節、気分転換に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、併設施設及び近隣の施設の協力を得ている。また、非常時の食品等も備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1600～1700キロカロリーの食事提供と水分1300～1500mlを目安にした。食事の量や水分摂取量は個人別の記録に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握されている。嚥下に支障のある利用者には、食事形態にも工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花や絵が飾られ、食堂やベランダには思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理の様子が感じられ音や香りで五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真をはじめ、テレビや趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。また家族の写真がホームで提供され、利用者が自宅でつろいでいるような気持ちにさせる配慮がなされている。		